

事後評価結果（平成18年度）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課
担当課長名：山口 登美男

事業名	一般国道238号 雄武市街	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道紋別郡雄武町字雄武 至：北海道紋別郡雄武町字雄武	延長	0.9km		

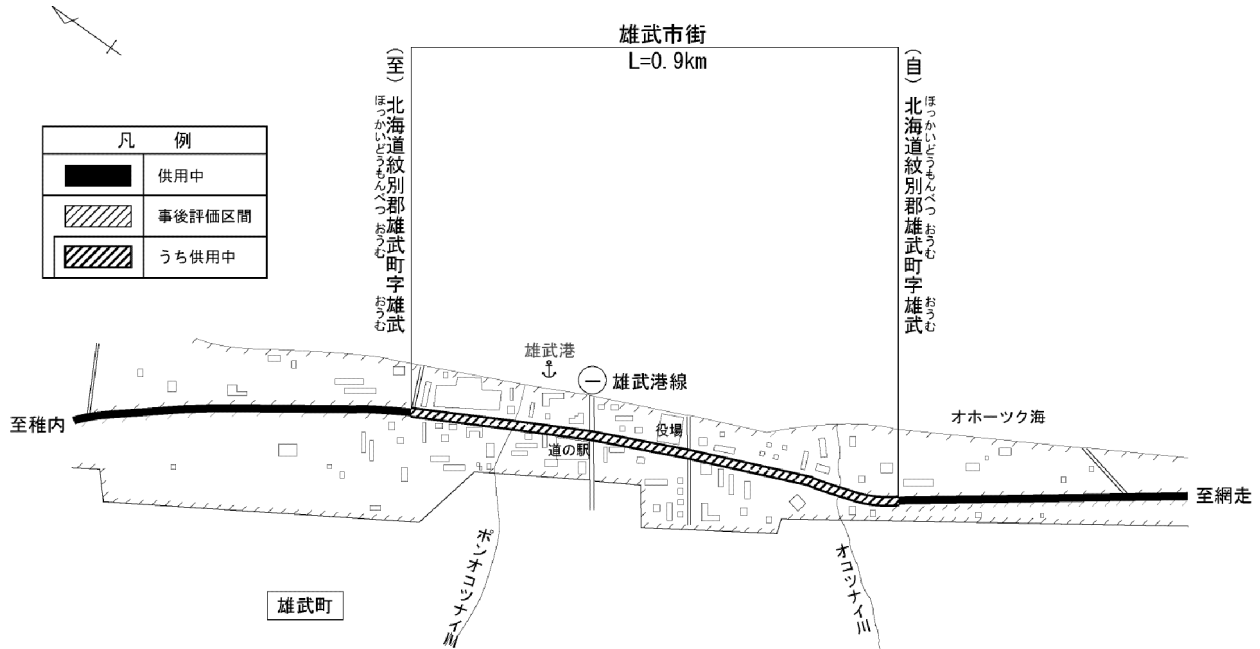
事業概要

一般国道238号は、網走市を起点とし、紋別市及び雄武町を経て稚内市に至る延長約320kmの幹線道路であり、オホーツク圏と道北圏を結ぶ重要な路線である。このうち、雄武市街は、雄武町市街地における延長0.9kmの拡幅整備事業である。

事業の目的・必要性

雄武市街は、線形不良区間の解消等による歩行者の安全性の向上、まちづくり計画との連携による中心市街地の活性化などに寄与するものである。

事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	H5年度	用地着手	H6年度	供用年	(当初) - / H13年度	変	
		都市計画決定	H4年度	工事着手	H8年度	(暫定/完成)	(実績) - / H13年度	動	
	事業費	計画時	(名目値) - / 36.6億円	実績	(名目値) - / 37.0億円			変	
		(暫定/完成)	(実質値) - / 36.1億円	(暫定/完成)	(実質値) - / 37.0億円			動	
	交通量	計画時	4,630 台/日		実績	5,175 台/日		変	
	(当該路線)	(供用前現道)			(当該路線)			動	
	旅行速度向上	21.1 → 38.4 km/h			交通事故減少	306.0 → 0.0 件/億台口			
	(供用前現道→当該路線)	(供用前年次)	H11年度	(供用後年次)	H17年度	(供用前現道→当該路線)	(供用前年次)	H7～8年平均 (供用後年次)	H15～16年平均
	費用対効果	B/C	総費用 48億円		総便益 52億円		基準年		
	分析結果	1.1	(事業費 : 48億円)		(走行時間短縮便益 : 51億円)		平成18年		
	(事後)		(維持管理費 : 0億円)		(走行経費減少便益 : 1億円)				
	事業遅延によるコスト増	費用増加額		- 億円		便益増加額		- 億円	
	事業遅延の理由	-							

	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現道等における交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等による安全性向上 <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業の整備により、事故の発生が減少しており、通学時の児童・学生等の安全性が向上した。 【死傷事故率の変化】整備前 306 → 整備後 0 (件/齡年) ●市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携に関する効果 <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業と一体となった商店街近代化事業により、良好な市街形成が図られ、円滑な道路交通と安全な歩道空間が確保された。 【景観の良さや街並みの明るさの満足度】不満 44.6% → 満足 92.9% ●中心市街地内で行われたことによる効果 <ul style="list-style-type: none"> ・商店街の近代化事業と連携した当該事業の整備により、年間商品販売額が増加している。 【年間商品販売額】整備前118億円 (H6商業統計) → 整備後125億円 (H16商業統計) 他6項目について効果の発現が見られる <p>その他評価すべきと判断した項目 特になし</p>
<p>事業による環境変化</p>	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>環境影響評価の対象外事業である</p> <p>その他評価すべきと判断した項目 特になし</p>
	<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人口・産業等の社会経済情勢の変化 <ul style="list-style-type: none"> ・雄武町において、人口は減少傾向にある。 (H7国勢調査) 人口 5,976人 → (H17住民基本台帳) 人口 5,507人 ・雄武町における農業算出額及び漁獲高はほぼ横這い傾向にある。 (H7) 農業算出額 39.5億円 → (H17) 農業算出額 41.9億円 (北海道農林水産統計) (H8) 漁獲高 29.8億円 → (H14) 漁獲高 33.8億円 (北海道水産現勢) ・雄武町の年間商品販売額は、一時減少したものの、近年は増加傾向にある。 年間商品販売額 (H6) 118.4億円 → (H16) 124.5億円 (商業統計)
	<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <p>雄武市街の整備により、現道における安全性の向上、沿道環境改善など、整備に伴う効果が発現している。よって、今後の事後評価の必要性はない。</p> <p>また、改善措置の必要性はないが、今後も利用しやすい道路環境の確保に努め、適切な維持管理を実施し、そのコスト縮減に努める。</p>
	<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> <p>特に同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性はない。</p>
	<p>特記事項</p> <p>特になし。</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。